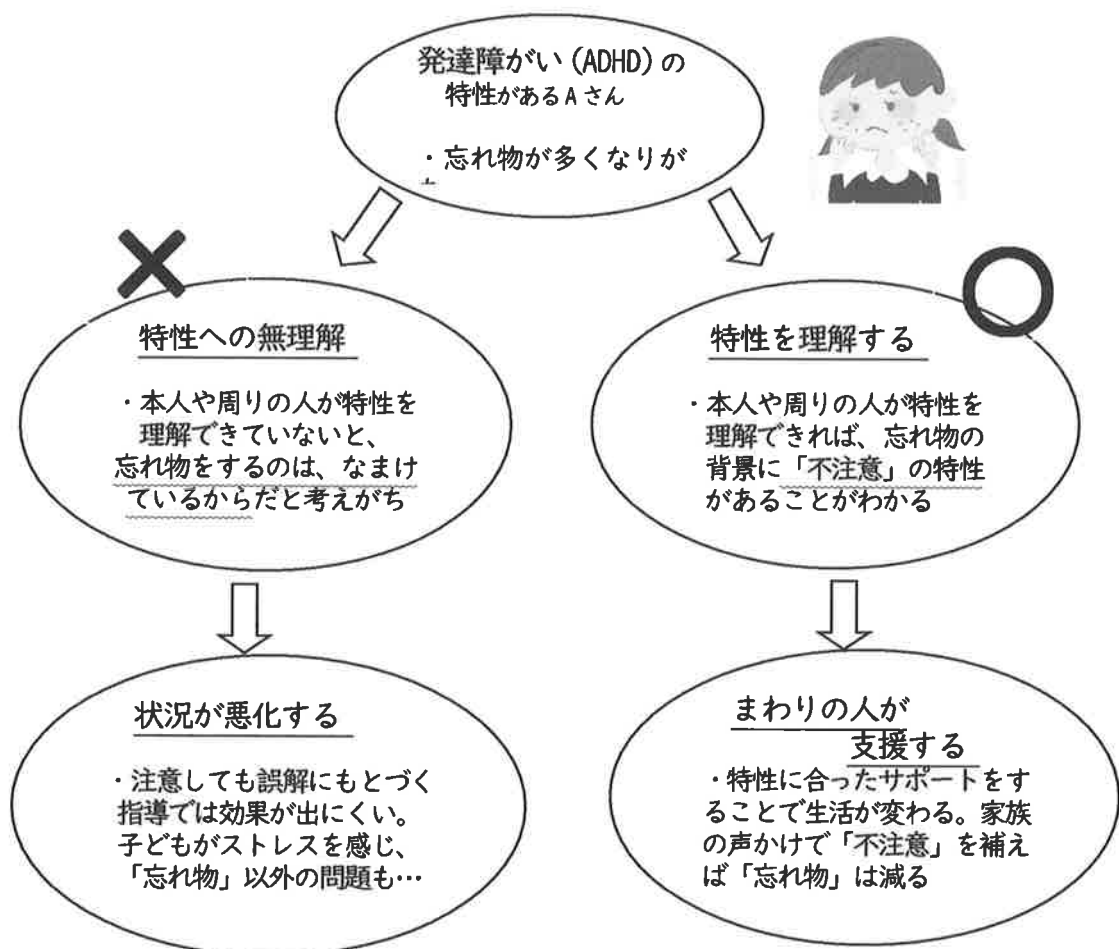


なにより必要なのは 理解すること！ *

発達障がい(発達の凸凹=アンバランスさ)の特性は、その子が生まれながらにもっている特別な性質です。それは、困難につながることもありますが、その子の長所として輝くこともあります。

特性は、子どもの個性のようなもので「病気」や「症状」のように治すべきものではないのです。発達障がいの子に必要なのは、特性を適切に理解し、生活の中でうまく活用していくことです。

特性への理解が不足している環境では、うまく適応できず、生きづらさを感じ、ストレスをつのらせます。そのまま理解や支援が得られなければ、ストレスなどによって、心身の不調が引き起こされ、二次的な障害となって現れることもあります。

**一般論にとらわれないで、その子に合った支援を...**

「〇歳になったら△△ができる」「子どもは□□するもの」といった一般論を子育ての基準にしているのは、発達障がいの特性を持った子の場合うまくいきません。「生活習慣は写真や絵、文字を使って視覚的・具体的に教える」「忘れ物を減らすために、家族が声かけたり、リストを示したりする」「書くことや計算が苦手な子にはPCなど別のツールを提供する」...など、理解にそった支援を考えることが大切です。

(「発達障害の子のライフスキル・トレーニング」梅永雄二 著・講談社より)

家庭でもできる特別支援教育 ～ほめること～

子どもを肯定的に見てあげましょう。良いところをしっかり認めてもらえることで、自信がつき、自己肯定感が高められます。自己肯定感の高まりは、前向きな姿勢や意欲を生み、自分を高めようとする原動力になります。

発達に凸凹のある子は、周囲を困らせる行動をとる事もあり、叱責を受けることが多くなりがちです。

上手くできた時には、
当たり前のことでも行動
そのものを認め、ほめて
あげましょう。

注意したくなるような
事でも見方を変えれば、
ほめる材料になるかも知
れません。



～ほめる時のポイント～

○ストレートな表現で、具体的にほめる!

「ゴミだし、手伝ってくれてありがとう! 助かったよ」

「〇〇の字、きれいに書けているね!」…

○ほめるハードルを下げて、些細なことでも、行動の事実
を認めてあげる!

「宿題、やり始めているね!」

(「宿題、まだ終わっていないの!?!」…×)

○見方を変えて、ポジティブに!

「間違いが 5 か所あるよ。でも、

前回より へっているね!」…etc.



★『ほめる』のいろいろ★

○「お片付けしているね!」

○「もう少しだね!がんばれ」

○頭をなでる、ほほ笑む

○「ありがとう」(感謝する)

○「その服にあうね」(興味を示す)…

心にゆとりを…

親御さんが頑張り過ぎて 疲れて余裕がなくなると、お子さんのことを誉めることができないばかりか、可愛いと思えなくなってしまうことがあります。家事や育児には休みがありませんから、睡眠不足や疲労、過度なストレスが複合的に重なって、へとへとになってしまうのです。その余裕の無さは、子どもへの過度な叱責や体罰にもつながりかねません。意識的に休息をとったり、趣味の時間をつくったりして、リフレッシュするよう心がけましょう。

○学校のこと、家庭でのこと、子育ての悩み…。一人で悩まず、相談してみませんか!?

「先生には ちょっと話しにくい…」という場合は、教育相談員や、スクール・ソーシャルワーカー、スクール・カウンセラーを利用してみては !?

○また、教育委員会には臨床心理士の先生がいらっやいます。お子さんの行動観察を依頼し、助言をお願いすることも可能です。まずは、ご相談ください。

教育相談員(城間律子先生)…(火)勤務、SSW(新垣久美子先生)…(木)勤務、SC(助川菜生先生)…(金)勤務、
時間帯は電話で確認してください。(問い合わせ…各学級担任、または教育相談担当:たまき)

※まずは、お気軽にお電話を…!! 西原小学校 ☎: 945-2402